

緑の社会はわたしがつくる 会員発プロジェクト

2026.1.7 運営委員会（社会運動部）

「会員発プロジェクト」は、緑の党内で同じ関心をもつ会員の自発的活動によって始まる持続的なプロジェクトで、社会運動の多様な側面を担います。緑の党の活動がより活発になり、市民団体をはじめ、幅広い団体・個人と連携し、「緑の社会」実現にむけて前に進むことを目的とします。

現在、7プロジェクトが登録されています。新しいプロジェクトの発足も歓迎です。どうぞ奮ってご参加ください。

会員発プロジェクトのルールと申請登録用紙、各プロジェクトの概要・連絡先などはHPに掲載しています。登録用紙もダウンロードできます。

➡<http://greens.gr.jp/member-senkyo/kaiinpj/>

- オルタナミーティング
- STOP リニア
- ソーシャルシネマクラブすぎなみ
- 会員・サポーターメーリングリスト
- 「動物との共生」プロジェクト
- 3.11 を忘れない GJ
- 脱成長・気候正義プロジェクト

各プロジェクトより、2025 年度の活動報告と 2026 年度の活動計画・抱負をお届けします。

■オルタナミーティング（ライブイベントプロジェクト） 大場 亮

<2025 年報告>

- ・ 8月31日 講談師・神田香織「はだしのゲン」を語る ゲスト：永田浩三さん
- ・ 10月18日 友川カズキ阿佐ヶ谷ライブ ゲスト：石川浩二さん

<2026 年計画>

2026 年も「はだしのゲン」をゲストを招いて開催します。



■STOP リニア

<2025 年報告>

JR 東海は当初目標の 2027 年開業を断念、工期を延長（最短 2034 年以降）、各地の環境問題の対応に追われています。

東京都：都市部での地盤異変 北品川の第一首都圏トンネル掘進中、地表の道路で数センチ～十数センチの地盤隆起が発生し、工事が一時中断しました。住民は「外環道陥没事故の再来」を懸念し、工事中止を求める抗議活動が再燃。JR 東海は「地上に影響はない」という前提が崩れたとして、原因究明と再発防止に時間を要しています。

静岡県：環境問題が最大の障壁に 鈴木新知事のもとで JR 東海との対話は進んだものの、「環境保全に関する 28 の課題」解決には至らず、2025 年内の着工合意は見送られました。流域住民は「大井川の水資源の保証」を強く要求しており、JR 東海はボーリング強化や環境モニタリングを提案していますが、県専門部会の納得を得られていません。

難工事と補償問題の表面化

地域	主要な出来事 (2025 年)	住民・自治体の声	JR 東海の対応
神奈川	駅建設は続くが、周辺用地取得の遅れ	車両基地建設で、残土の盛り土崩落の危険	地域イベント等で理解促進を継続
山梨	南アルプストンネル掘削は 7 割に達するも、重金属を含む水が流出するリスクが浮上	水質管理体制への不信感が再燃	水質モニタリングの強化を約束
長野	工事完了目標が 2031 年に大幅後ずれが確定	ヒ素などが基準値以上含まれる「要対策土」の埋立について、県の委員会で疑問の声相次ぐ。地下水の汚染が問題化。	工期見直しを正式に伝達し、理解を求める
岐阜	瑞浪市などで井戸水枯渇・地盤沈下が深刻化	「原状回復は困難」という JR の発表に住民が怒り	工事中断し、代替水源の確保と補償協議へ
愛知	名古屋駅の地下掘削	2025 年 12 月、名鉄は名古屋駅地区の大規模再開発計画（地上 30 階規模のビル建設など）について、全てのスケジュールを「未定」とし、事実上の白紙・凍結状態に入ったことを発表	駅工事を継続し、完成を優先的に推進

難工事に加え、都市部での地盤異変や、岐阜県での水枯れ問題に対する「原状回復困難」の表明は、リニア計画における環境リスクの現実を強く印象づけました。2027 年開業は正式に断念され、リニア計画は安全確保と地域との合意形成という、より困難な局面に突入しています。

<2026 年抱負>

トラブル続出で深刻な被害が頻発、各地域で土地を手放さない住民がいます。できるだけ早期に工事を中止して、少しでも多く環境を守りたい。26年も引き続きメンバー地域の活動と訴訟、沿線のつながりで協力していきます。

■ソーシャルシネマクラブすぎなみ（ドキュメンタリー映画プロジェクト）大場 亮

<2025 報告>

・上映作品

1月「コスタリカの奇跡」

2月「戦場で生まれた奇跡のレバノンワイン」

3月「おだやかな革命」

4月「線量計が鳴る」

5月「最後の楽園コスタリカ」

6月「SEED」

8月「2040」

9月「私は憎まない」

10月「TERRA 僕らの地球のつくりかた」

11月「原発をとめた裁判長」「ジェンダー・マリアージュ」

12月「リペアカフェ」

・毎月の上映会に加えて、4月（40名）8月（65名）11月（85名）の参加で、上映会を行いました。

1月（関根健次さん）

5月（足立力也さん）

12月（岸本聡子杉並区長）をゲストに招きました。



<2026 計画>

2026年もマンスリー上映会に加えて、気候変動などの市民団体との連携を企画します。

■緑の党会員・サポーターメーリングリスト 尾形慶子

<2025 年活動報告>

緑の党会員・サポーターメーリングリストは、2025年の1年間に1,078通のメールが会員・サポーターのあいだに投稿され、「緑」の社会を創るための有用な情報共有に役立てられました。

<2026 年抱負>

福島原発事故から14年が経ち、大地震と気候災害の危機はますます深刻です。さらに、ウクライ

ナやガザの平和はいまだ先が見えないばかりか、世の中の不安が差別主義・排外主義を助長し、社会を分断しているのは、日本だけではなく世界の傾向です。このような困難な時代に、分断を乗り越え、地球と人々の未来のために連帯し、気候正義を追求しようとする、緑の党の役割は重要です。会員・サポーターがメーリングリストを利用して連帯を深めるのに役に立ててもらいたいと思います。

■動物との共生プロジェクト 和高美樹

<2025 年報告>

1. 元繁殖犬とのふれあい訪問。

2月に児童養護施設へ。12月5日にも予定。

2. 地域猫活動

去勢手術をすませた地域猫に餌を届ける活動。根城であろう雑木林に葉っぱにはさんで置く。

3. 街中のプラごみ拾い活動と啓発(浜松さわやかパトロール)

ポイ捨てされたプラごみが、側溝から川、海へと流れ、粉々にくだけでもなくなることはなく、生態系を傷つけ環境を汚染する。海や川、生態系を守ることを目的に、ふだんから、また有志と月一で活動。

4. 熊の予防的殺処分反対の署名の呼びかけ

<2026 年抱負>

1.2.3 は毎年行っていく。生物多様性や生態系の保護は、温暖化対策の目的にも挙げられている。人間がそれによって利益を得るからという理由ではなく、動物それ自身のためという「動物の福祉」の考えは日本ではまだ根付いていない。先進国ドイツの考えや取り組みを参考にしながら、畜産・ペット・実験動物・野生動物の問題と改めて向き合いたい。

■3.11 を忘れない GJ 小笠原学

<2025 年報告>

募金活動（チャリティーイベント等）を通して、原発事故被災者の支援を行っている団体（チーム「3.11 を忘れない」）に協力・支援することで、福島原発事故の風化を防ぎ、被災者の支援を行いました。

○第5回「3.11を忘れない」チャリティーイベント実施

1 1月30日オンラインにて実施

3団体へ寄付

(「NPO はっぴーあいらんど☆ネットワーク」へ3万円、「柏崎刈谷原発再稼働の是非を県民投票で決める会」へ3万円、「だまっちゃおれん！原発事故人権侵害訴訟愛知・岐阜」へ3万円)



2025年チャリティーイベント

<2026年抱負>

今後も街頭募金・講演会活動に協力・支援し、原発事故の風化予防と被災者支援活動を継続する。

■脱成長・気候正義プロジェクト 宮部彰

<2025年の報告>

2025年2月の総会では、「税と社会保障」のビジョンと政策の議論の重要性を指摘し、活動方針に盛り込むことを提案し、活動方針に反映された。

党の「税と社会保障」の議論に即して、その後も月1回のペースで会議を開催した。

2026年の総会では、「税と社会保障」についての決議案を提出する予定である。

今後の課題としては、脱成長社会のビジョンを魅力的なものとして提言することが必要だとの方向性を確認している。

<2026年の方針>

国政選挙で減税ポピュリズムが吹き荒れ、将来の財政危機の可能性が高まり、社会保障の削減が

徐々に進められることが予想されている。自己責任社会がさらに深まる中で、支えあいのための「税と社会保障」のビジョンと政策は、ますます必要となっている。

脱成長社会における「税と社会保障」のビジョンと政策の具体化に向けて議論を進め、その成果を緑の党に反映したいと考えている。

また、気候危機対策に対する逆風が起きている現状を、反転させるためにも、脱成長と格差・貧困を結びつけるビジョン・政策を、具体性と魅力を持ったものとして提言することが、緑の党の発展につながると考えている。

月1回のペースを維持し、冊子の発行も追求したい。